

沖縄防衛局が選挙介入

有権者リストを作成、職務中に局長が「講話」

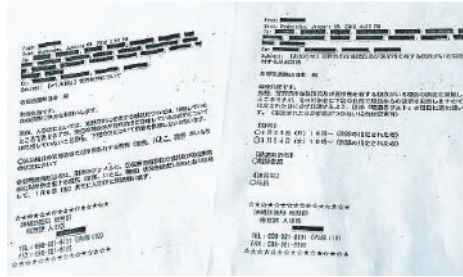
赤嶺議員が暴露し追及



「新基地を押し付ける国家権力による不当な選挙介入だ」。日本共産党の赤嶺政賢議員は1月31日の衆院予算委員会で、米軍普天間基地「移設」問題が大争点になっている沖縄県宜野湾市長選挙に関し、防衛省沖縄防衛局が選挙介入していた疑惑を内部告発をもとに追及。委員会に衝撃が走り、野田内閣が沖縄県民の総意を踏みにじり、新基地建設に暴走するなか、引き起こした疑惑です。質問の要旨を紹介します。

宜野湾市在住の職員及び選挙権を有する親族は聴講するよう……選挙に対する国家機関の中立・公正、地位利用の禁止に違反

赤嶺氏が暴露したのは、沖縄防衛局の総務部総務課人事係が局内各部の庶務担当者あてに送った2通の電子メール。メールには、同市に選挙権のある職員や親族らのリストを作成し、対象者を集めて真部朗局長が「講話」を行っていたことが明記されています。4日付文書は「宜野湾市在住の職員及び宜野湾市に選挙権を有する親族」の調査を依頼。18日付ではその対象者に局長「講話」（23日午後4時、24日午前10時）を「必ず聴講する」よう通知を求めています。指定された時刻は職務中です。



党へ寄せられた2通の告発メール（日付は1月4日、18日）

赤嶺議員は告発メールを読み上げ、「職務命令によって有権者リストをつくらせたことは極めて重大だ。国

衆院予算委集中審議で赤嶺議員追及。無法な選挙介入明白に「講話は業務の一環」と防衛局長認める

衆院予算委員会は2月3日、沖縄防衛局による宜野湾市長選介入問題で集中審議。真部局長（参考人）は講話の目的について「宜野湾市長選挙は私どもの業務の観点から重要な選挙」「職員としてきちんとおこなうようにしたいと考えた」と述べました。

赤嶺議員は、真部氏に対し「選挙に関しては職員である前に一有権者だ。自由な判断が保障されなければならぬ。その有権者に局の立場でのぞむよう徹底し、指導したことになる」と指摘し、野田佳彦首相の見解

を求めました。

赤嶺議員 講話が一般的な選挙の啓発活動ではなく、国家権力による介入であることは明白だ。

野田首相 政治的中立性、公正性の点で批判や懸念が出てざるを得ないような状況だ。しっかり防衛省として調査し、適正に対応してほしい。

志位委員長 真相解明へ沖縄防衛局長の証人喚問を要求



日本共産党の志位和夫委員長は3日に記者会見し、今回の選挙介入問題について、大きく三つの深刻な問題点を指摘。党の考えと今後の姿勢について明らかにしました。

真部沖縄防衛局長の行動は、国家権力による選挙への重大な介入

局長講話の要旨をみてもどちらの候補を事実上応援しているかは明りょうで、選挙運動そのものに反する疑いが濃い。全容究明のため防衛局長の証人喚問を強く求める。講話の中身も、公式の講話記録がないことはありえない。国会に対して講話の記録の全体を提出するよう求めていきたい。法律にも憲法にも違反する疑いが強く厳正な捜査を求める。

選挙への介入が宜野湾市長選にとどまらず常態化

名護市長選・市議選、沖縄県知事選、国政選挙と過去5年にわたり同様の介入が行われていた事が判明。「国策」に沿って民意を歪め、誘導するという選挙介入が常態化していた。本省も含めた防衛省の組織ぐるみの行動ではないのか徹底究明すべきだ。

野田政権が辺野古に米軍新基地を押し付けようとする強権的なやり方が今回の選挙介入を招いた

民意無視で無理やり宜野湾市辺野古に新しい基地をつくる政府の姿勢そのものが問われている。こうしたやり方を改め、米軍・普天間基地の無条件の撤去という方向への方針の抜本的転換が必要だ。

